

平成27年度 第5回 緩和ケア勉強会のご報告

今年度の第5回緩和ケア勉強会は、12月17日に開催いたしました。出席人数は44名、うち、院内16名、院外28名でした。

第5回目の今回は「患者の家に帰りたいという思いの実現を目指して」として、当院退院調整看護師と訪問看護師の連携で、THPによる情報共有ができた事例の発表をしていただきました。主治医が入院後に化療困難であると判断して、速やかに退院調整看護師に連絡して調整を開始し、訪問医と訪問看護師に連携を取って厳しい病状の中で在宅療養へ移行して、家で最期まで過ごすことができた事例でした。福井先生の、「最高の病室は自宅だよ」という患者家族への声掛け、在宅緩和ケアでは、苦痛を取ることと、安楽・安心を与えることが重要だと言われたことが心に残りました。

討論では在宅療養の開始時期に関する問題提起があり、がん治療中から在宅医療を併用することを緩和ケアチームとしても勧めていく方向性を感じました。がん治療をする病院主治医と、在宅緩和ケアとして体調の調整を行う在宅医の、「主治医二人体制」をなるべく早い時期から提案していくことを、今後も勧めていきたいと思いました。

今回はアンケートでの感想を紹介させていただきます。

アンケート結果報告

- ・ 本人にとってどこで最期を迎えることが良いのかを考えるきっかけとなりました。
- ・ 退院前の調整でその後の在宅療養に大きな違いがでると感じました。入院中、外来通院中からの関わりで連携することで安心を得ることができるのだと思います。
- ・ THP+でのリアルタイムでの情報共有は有用だと思います。
- ・ 治療を終了して、緩和ケアへシフトチェンジしたことを、本人や家族が理解し、その先の目標を見つけられることが理想だと思いました。

勉強会の様子



次回の勉強会：2016年2月18日（木） 18時～19時半

内容：『家に帰りたい』本人と『家では看れない』介護者の思いを調整し、自宅で最期を迎えられた事例

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もしばしばご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX：0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp